

令和 3 年度 局の事業の課題に対する 取組みについて

大阪市における在宅医療・介護連携推進事業のめざすべき将来像

医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、多職種協働により在宅医療と介護を一体的に提供できる体制が構築されている。

めざすべき将来像に向けての局の課題

1. 事業の進捗管理
2. 広域連携の仕組みづくり
3. 区役所・相談支援室に対する積極的支援

(1) 評価指標での進捗管理

【これまでの取組み】

● 平成29年度 医療施設等アンケート調査の実施

調査項目

- ・医療側：連携度、貢献度、従事者満足度、職種・機関別連携度 等

● 令和元年度 高齢者実態調査の実施

調査項目

- ・本人：生活満足度
- ・介護支援専門員：連携度、従事者満足度
- ・介護施設：連携度、貢献度 等



評価指標を設定



令和3年度の取組み

- ・在宅医療・介護連携推進事業に関するアンケート調査を実施予定

(議事5へ)

(2) 区役所・相談支援室への取組み調査からみる事業の進捗管理

【これまでの取組み】

- ・事業の取組み状況について区役所、相談支援室へ2回/年調査を実施
- ・調査内容：各事業項目について取り組んでいるか否かの実態 等
- ・取組みの実態は把握できるものの、各区における具体的な「課題」「目標」「対応策」を聞き取れていないことで、区に応じた支援へとつながらなかった。



令和3年度の取組み

- ・各区の取組み内容や事業進捗についてより詳細な把握ができるよう、調査内容の変更を検討。
- ・各区においてめざすべき姿に向けて「抽出された課題」、「目標設定」、「課題解決に向けた対応策」についての具体的内容を把握する。
- ・調査結果より、各区の具体的な取組み内容を把握することで、個別支援へとつなげる。

局の課題 2 広域連携の仕組みづくり

【これまでの取組み】

令和元年度・令和2年度

『入退院支援にかかる多職種研修会』を基本保健医療圏毎に開催

目的：○区域を越えた専門職の連携強化

○さまざまな職種の専門職が職種を越えて交流し、その職種ならではの視点・役割・重要性を知る機会とする。

結果：アンケートで「他職種への理解が深まった」との回答が9割以上（回答数：696人）

令和3年度取組み

- ・さらなる広域連携へつなげられるよう、基本保健医療圏から大阪府域へ対象者を広げた研修会の開催を検討

【これまでの取組み】

- ・『在宅医療・介護連携推進事業 区新任担当者等説明会』の開催
- ・区役所及び相談支援室への個別支援
- ・『区役所実務者、在宅医療・介護連携支援コーディネーター合同研修会』の開催
(令和2年度 第1回目「ACP」をテーマに開催)

令和3年度の取組み

- (1) 区役所への支援
 - ①『在宅医療・介護連携推進事業 区新任担当者等説明会』の実施
 - ②区役所への個別支援
(人事異動に伴う区役所実務者の交代、取組み調査より支援の対象を検討)
- (2) 相談支援室への支援
 - ①新任コーディネーターへの個別支援
 - ②新任コーディネーター向け『コーディネーター連絡会』開催の検討
- (3) 区役所・コーディネーターのスキルアップと連携
『区役所実務者、在宅医療・介護連携支援コーディネーター合同研修会』の開催
(「認知症」への対応力の向上に向け、取組みの強化の内容検討)